

## 笑顔でつながる We love 清明

— みんなが主役 —

清明公民館

### 1 清明地区の概要

福井市の中心部から南へ約5kmに位置し、城山（じょうやま）・引目山を背景に、朝六ツ川・江端川が流れ、緑豊かな田園風景が広がっている。一方、近くに大型ショッピングセンターや新興住宅地もあり、豊かな自然と調和しながら発展をとげている地区である。

この清明地区は昭和57年(1982年)に清明小学校が開校すると同時に誕生し、地区名の清明は、明治時代の荒井小学校の校訓「忠孝・清明」に由来している。歴史的遺産や伝統的なつくりの民家、土蔵なども多く保存されており、今も懐かしい景観を望みながら先人の足跡を学ぶことができる。

清明地区では、これまで公民館を拠点に各種団体が様々なまちづくりを展開してきた。地区住民から募集して道路に「あじさいロード」の愛称をつけたり、シンボルマークや清明の花(バゴニア)・清明の歌を定めたりして、住民の愛郷心を育ててきた。また、城山の登山道や冒険の森を整備して、自然と共生できるエコタウンとしても確かな歩みを見せている。その他、地域の宝である歴史や文化の伝承にも努め、地域一丸となって、ふるさと清明のよさを発信し続けている。



【清明の守り神  
「清たん」】

平成26年、まちづくり委員会主催の「清明ときめき夏祭り」でゆるきゃらコンテストを行い、当時清明小6年の児童が考えた「清明の守り神 清たん」を選んだ。それを公民館で少しアレンジし、清明の宝でできている「清たん」が誕生した。

耳は大島山(大島町)、額には日吉神社の三日月池(江端町)、足は八幡神社の石ずりあそびの石(下荒井町)、しっぽは白蛇神社の白蛇(杉谷町)、手には八房の梅(中荒井町)など、地区の宝が盛り込まれている。色は清明小のシンボルカラーである。また、多くの方に知ってもらおうと着ぐるみを手作りし、親しまれている。

平成30年1月1日現在、人口は7,837人、世帯数は3,001戸である。

### 2 地域をつなぎ「ふるさと清明のよさ」を発信!

#### (1) 資源の循環型社会を目指す「夢ファーム会」

・・・環境学習から発展

平成23年、公民館の教育事業(環境学習)で、地域課題として資源の循環型社会を取りあげ、これを5ヶ年計画で進めることとした。そして、最終年度には地域住民の手で自主的な団体として活動できるよう企画した。

初年度には、福井市や地域のゴミの現状についての勉強会を開催した。その後、コンポストについての勉強会や公民館で生ごみの1次発酵を行った。また、毎週木曜日(朝7時から1時間程度)、会員が自主的に参加して地区内で畑を借りて野菜作りを行ったり、畑で生ごみの2次発酵や、野菜を販売したりして、徐々に、「地区の生ゴミ→有機肥料づくり→有機野菜づくり→安心・安全でおいしい野菜の消費→生ゴミ」という循環に発展していった。

そして、平成26年には「夢ファーム会」として独立した活動を行うようになった。会員には勉強会や作業に参加すると野菜と交換できるポイントカードを発行している。また、地区の環境意識の高揚を願い、収穫作業に子どもたちや地域の方の参加を募ったり、毎週採れた野菜を地区の方に販売したりする活動も行っている。今では、軽トラックで各自宅のコンポストの集配を行うことや、有機ボカシ「ゆうき」を使って地区の花壇や家庭菜園で有機栽培をするなど、清明地区に資源(生ゴミ)を循環するシステムが定着しつつある。

これからも清明地区のゴミの減少を図り、化学肥料ではなく有機肥料を使用することで、トンボ、魚、鳥などと共生した昔の美しい環境を取り戻せるよう、地区の方の参加を促し自治力を高める努力を継続したい。



【公民館での有機肥料作り】

## (2) 地区の歴史を伝える御代参(ごだいさん)祭り

### ・・・郷土学習から発展

江戸時代に第12代福井藩主松平重富公が、江端町にある日吉神社の三日月池の水を飲み病が治ったお礼に、同神社に徳川家紋入りの提灯を寄贈して参拝したのが始まりである。その後約100年間、家来が行列を成して神社に詣でており、この御代参行列は廃藩置県の前年(1871年)まで続いていた。

公民館の教育事業(郷土学習)で清明の宝「歴史遺産」について学んだ方々が、この御代参行列を時代行列として再現し地域の歴史を伝えることで、郷土愛の育成や地域づくりに繋げたいと考えた。そして、その旨をまちづくり委員会や地元の方々に伝え、平成26年、参勤交代を参考に「御代参祭り」として実施することができた。2回目となる平成29年には、新たなしかけとして、各自治会にお願いして「時代村」を再現してもらった。また、地区の方が中心となり、図書館で借りた資料を参考に、段ボール、古着、プラスチックなどを使い、行列で身につける甲冑や衣装・小道具をみんなで話し合いながら手作りした。

祭りの当日は、それぞれの役になりきった大人から子どもまで約70人が行列に参加し、重富公が贈った提灯を先頭に、公民館から日吉神社まで練り歩いた。馬も一役買い江戸時代の雰囲気盛り上げ、多くの住民の参加を得ることができた。

今後は、足りない衣装や小物を増やすなどして、さら



【殿・姫・武士などに扮して練り歩いた御代参祭り】

に盛り上げ、地域の方々や団体、子どもなどみんなが参加し楽しめる地域の祭りとして後世に継承していきたい。

## (3) 子どもたちの夢を叶える「せいめい夢王国プロジェクト」・・・子どもたちが主役の青少年教育

公民館での青少年教育に表現活動を取り入れたいと考え、平成25年度から発表の場として「せいめい夢王国」を開催している。青少年の仲間づくりと夢あふれる公民館にすることが目的だが、子どもたちが公民

館活動を通して自分の夢を見つけることや、ボランティア活動を通して地域貢献のできる人材として育つことを願っている。

「せいめい夢王国」の行事は年3回ほどで、主な内容は、芸術表現活動(ライブ、演劇、映画や動画制作)や食育活動(カフェやパーティ)、地域事業参画(ときめき夏祭りやきらめき文化祭への参加)などである。企画や準備も含め、平成29年9月現在、約4年間で活動回数は110回を数え、これまでのべ1,096人の子どもたちが関わっている。公民館職員は、子どもたちの夢を叶える相談役として、創造性や自主性を尊重しながら、活動を通して仲間とともに作り上げていく喜びを体感できるよう支援をしている。



【「夢王国ハロウィン物語」と「夢王国クリスマス物語(絆バンド)」】

今は、平日でも20名以上の子どもたちが放課後、清明公民館に集まるようになった。地区の団体と連携して小学生の合宿通学なども実施しており、けんかや涙ありの中、日々、笑顔いっぱいの公民館である。

## 3 終わりに

清明公民館は、近年、子どもが集まる公民館として知られるようになり、アットホームでかけがえのない住民のオアシスになっている。また、各種団体や自主グループも公民館を拠点にパワフルに活動しており、このような活動の様子を公民館のホームページや公民館だより、Facebookなどで紹介することで、多くの方々につなげている。

また、これからも、地域の「歴史・自然・文化」を大切に、人と人が笑顔でつながり、郷土愛に溢れ、明るく元気にいきいきと活動する清明公民館、清明地区であり続けるよう努めていきたい。

地区の歴史を伝え後世に残す活動、未来に向けての資源循環型社会をめざす活動、子どもの「夢王国」など、清明公民館が、地区の方が中心となり主体的・創造的に行動できるよう、人々をつなぎ支える役割を大きく担っていることを実感しました。笑顔いっぱいで、「清明愛」にあふれた地区として、ますます発展されますことを祈念します。